



未知のことに出逢い、
 自分で考え、判断すること

羽生善治

Yoshiharu Habu

「天才は涼しい——これは以前、内藤國雄九段が羽生の人物評として口にした言葉だ。デビューから33年、永世七冠を達成し、国民栄誉賞を受賞してもなお未知への挑戦を続ける羽生は、今、何を見据えているのだろうか。」

勝っても負けても、忘れること

将棋は古代インドのボードゲーム、チャトランガに起源を持つ。平安時代に日本に伝わり、独自の発展を遂げて今の形になった。江戸時代には茶道や華道のように家元制度が敷かれ、「道」を学ぶという人間修養的な側面も強かった。

しかし、そんな将棋界にも時代の波が押し寄せる。20世紀後半、コンピュータの普及によって棋譜データ(対局の記録)が広く共有されるようになり、将棋の「頭脳スポーツ」としての本質が際立ってきたのだ。この新たな潮流とともに現れたのが、15歳の天才棋士、羽生善治だった。

年間最高勝率8割超え。デビューから33年たった今も平均勝率は7割超えをキープしている。ただ強いだけではなく、変化に対応し、勝ち続けること。これが羽生が最強といわれる所以である。「棋士生活というのはマラソンを走っているような感覚なんです。大事なのはトップ集団に居ること。トップ集団にさえいれば、最後についていてもいい。」

常勝の秘訣を聞くと羽生はこう答えてくれた。また、長く続けるうえで「忘れることが大事」とも語る。「勝っても負けても、気持ちを早く



写真:日本将棋連盟

はぶ・よしはる

1970年、埼玉県生まれ。6歳から将棋をはじめ、1985年に史上3人目の中学生プロ棋士となる。19歳で初タイトルとなる竜王位を獲得。1996年には24歳の若さで史上初の「七冠制覇」を達成した。2017年には前人未踏の「永世七冠」を成し遂げ、翌年、将棋界で初となる国民栄誉賞を受賞。趣味はチェスで日本ランキング2位の腕前。

切り替えること。勝てば慢心や油断が生まれ、負ければ消極的になります。過去の残像を引きずらず、自分なりの総括をしたら、勝敗については忘れてしまった方がいい。もちろん私にも感情がありますので(笑)、そういう感情の起伏をどうモチベーションに変えていけるかということが重要だと思っています。」

羽生は「玲瓏(れいろう)透き通るように美しいさま」という言葉を好んで使うが、勝負の世界にあつてそれは簡単なことではないのだろう。「メンタルのことは未だに試行錯誤です」と頭をかいた。

これからの時代に必要な力

81マスの盤上で起こる局面は10の2乗。将棋はAIをもってしても未だ完全解に至らないほど複雑なゲームだ。

「対局中は、ココもダメ、あそこもダメと、9割方はうまくいかないことを考えています。だから正解を読み切っているのではなく、なんとなくこっちの方が良いんじゃないかという感覚で打っていることの方が多いですね。」

羽生はこう解説してくれたが、もちろん基本的なデータを勉強し、可能な読みを行ったうえでの話である。

「データを知らない」と一発で負けてしまう。でも、今やデータは常識なのでそこでは差はつきません。そこからいかにオリジナルのものを生み出せるかという個性が大事になってきています。」

AIや将棋ソフトの発達により、最新の将棋は1週間単位で新手(今までになかった戦術)の研究が進んでいるという。大勢が研究したアプローチが結果を出すという現実はあるが、それだけでは画一化に陥ってしまうと羽生は考えている。

「多勢に無勢」というところはあります。が、小さな研究や発想に対しても、なにか可能性があるのではないかと目を通すようにはしています。最先端のものは

どれもそうだと思うんですが、まだまだ暗中模索。とにかくやってみなければ分からないという状況です。」

AIの脅威が迫っているのは将棋界だけではない。この状況については「AIに言われると簡単に信じ込んでしまうところがありますが、それは怖いことだと思います。AIは確率を高めることをしているわけで、絶対に間違わないわけではない。AIが出した答えに対して自分なりに疑いを持ち、考えることが必要」という見解が返ってきた。では羽生の言う感覚や個性、自分で考える力はどうすれば磨くことができるのだろうか。

「はじめての環境に身を置くことですね。知らない街を歩いてみるのもいいんです。ルーティーンは考えを狭めてしまいますから、未知のことに出逢って、自分で考え、判断する。そういうことを繰り返していくうちに、自ずと力が身についてくるのではないのでしょうか。」

Contents

02 スペシャル・インタビュー【先駆者たち】

羽生善治
 (将棋棋士)

04 Special Feature

熱の力
 ~「快適」を支える主役たち~

09 【EpochMaker】
 360°旋回が可能な船用プロペラの王様
「レックスペラ」の35年

10 【TechnoBox】
 人共存型双腕スカラロボット
duAro (デュアロ)

12 【川に見る・日本の四季】
津軽海峡から「春」を追う

14 HOT TOPICS

【表紙】
 小型貫流ボイラ「WILLHEAT」の運行点検
 →詳しくは「Special Feature」(4ページ)をご覧ください